

北海道稲門教育会のあゆみ

北海道稲門教育会会長 吉澤正伸

1 「北海道教職稲門会」の設立

本会は昭和50年代の前半、当時札幌北高校教頭の上野充夫校友が札幌近郊の校友教員で懇親会を開催したことが発端と思われれます。早稲田で学び、縁あって道内で教職に就く者が集うのは初めてのことであり、堰を切ったように大いに盛り上がり、この機運を全道に広めていこうとの思いが醸成されたと伺っています。この会の様子が上野校友から室蘭清水丘高校教頭の竹本義明校友に伝えられたのですが、この誘いが生粋の早稲田マンである竹本校友の琴線に触れないはずはなく、両氏の積極的な活動が開始されました。竹本校友は、常日頃から「私は、大隈侯の銅像に口づけしたいほど早稲田を愛す！」と公言してはばからない、母校愛に燃える校友の中でもその権化とも言える人物であり、本会設立の機運が弥が上にも高まったことは言うまでもありません。

全道の校友に働きかけるには、先ずは管理職の校友からとの判断のもと、上野校友と竹本校友、そして当時新設された登別南高校教頭の室田浩志校友が発起人となり、校長や行政職等が参集した会合が開かれました。この席で発起人は、本会の設立構想を「全道各地でワセダスピリットのもと、教育に専念している校友と胸襟を開いて語り合いたい、そのため校友会をつくりたい。」と熱っぽく訴え、道教委指導主事の和角一校友が全道の稲門出身者の名簿作成を約束する等、設立へ向け大きく前進しました。

また、特筆すべきは、その会の中心に座っておられたのが当時道教委高校課長の久保田宏明校友であり、その後、学校教育部長やタイの日本人学校長等を歴任され、本道教育界に多大なる功績を残されています。当時は指導主事はじめ教育行政に携わる者は官学出身が主でしたが、久保田校友はその壁を破り、ユニークな発想、清濁併せ呑む心の広さは他の追従を許さないものであり、正に本会会員の精神的な支柱であったことは疑いの余地がありません。久保田校友は、現在は東京在住で、穎明館中学高等学校長等の多くの公職を兼務されるとともに、稲門教育会副会長としてご活躍中であることはご承知のとおりです。

かくして校友が渴望していた第1回「北海道教職稲門会」が札幌のホテルで開催（写真）され、総会で初代会長に芽室高校長の栄國義校友が選出されるとともに、肩を組んでの「都の西北」と「紺碧の空」が声高らかに斉唱されたのでした。当時出席の校友の多くは、校歌斉唱で目頭が熱くなったと回想しています。

翌年には2回目の管理職の会合が開かれ、竹本校友が作成した会則原案を検討、そして第2回「北海道教職稲門会」を開催し、総会において会則が承認されています。会則には、「早稲田大学出身の教職関係者を

会員とする。」、「教職関係者以外で、この会に賛同する者を特別会員とする。」とあるように広く門戸を開いたのも大きな特色となっています。

2 成熟期そして「北海道稲門教育会」

本会の生みの親が上野校友、精神的な支柱が久保田校友であるならば、育ての親は前述の設立に携わった校友と歴代会長です。それぞれが早稲田マンらしく、かつ個性に富んだ会の運営をされ、会員相互の親睦や研修、会員拡大等に尽力されています。

また、本会の充実・発展に設立当初より積極的にサポートして下さったのは、校友で道議会議員の佐々木利昭先生であり、道議会の初代文教委員長も務められながら長年にわたって物心両面のご支援をいただきました。同じく校友で衆議院議員の上草義輝先生には、本会結成に感動され、臙脂に「W」と「北海道教職稲門会」が染め抜かれた会旗を寄贈いただいています。

その他にも道内の各界で活躍されている方々からご支援をいただいています。本会が組織体として円滑かつ効率的に活動するために忘れてはならない存在が事務局体制であり、会長の意を体して事務局を取り仕切った歴代の幹事長や幹事の校友には、総会の準備や会報の作成、名簿の整備等々、寝食を忘れた広範多岐にわたる会務の処理に頭の下がる思いです。

このように多くの校友の熱意に支えられながら本会は発展してきたわけですが、平成11年の総会で一つの転機を迎えることとなります。前年の総会ですでに提案されていた本会の名称を「北海道稲門教育会」に変更することであり、第9代会長である札幌北高校長の大東俊郎校友の英断により、母校の組織である「稲門教育会」にマッチさせ、また、会則を「早稲田大学出身者で、道内のあらゆる教育機関に従事する者、あるいは教育に強い関心を持つ者を会員とする。」と改め、新たな船出の日としました。なお、この名称と変更の趣旨はその後も引き継がれ現在に至っています。

3 現況

本会の名簿上の会員数は約170名を数え、校長や教頭をはじめ、私学や道教委事務局職員等多数名を連ねる多彩な顔ぶれとなっています。

名称変更後の近年の主な事業としては、先ず、例年1月には本会の活動方針や予算審議、そして会員相互の交流や親睦を深めるとともに、文字通り胸襟を開いての教育談義に花を咲かせる「総会・懇親会」を開催しています。全道各地から、中には1日ばかりで会場に馳せ参じる校友もおり、様々な勤務先の者が集い、多感な青春時代を早稲田の杜で過ごした者同士、和気藹々とした中にも昨今の教育改革や各人の実践等、教

育に対する熱い思いを語り合う姿が毎年見られる会となっています。また、母校から地域コーディネータに出席いただき、例えば母校の創立125周年事業等に代表される最新情報に触れる機会でもあります。

また8月には、主として管理職や行政関係者等を対象とした「夏季研修会」を開催し、ここ数年は各界で活躍中の校友やOBの大学教授による講演会、現職会員による学校改革の実践発表等、時宜に応じたテーマによる会員の研修の場としています。さらに、年1回ですが「会報」を発行し、総会や会員の近況報告、異動状況等を掲載し、母校や会員相互に関わる各種の情報を提供しています。

終わりになりますが、本文の執筆にあたり、多くの校友に情報提供をいただきながら過去を振り返る絶好の機会となったことに感謝申し上げます。特に、設立期の貴重な資料や情報をお寄せいただいた先輩には心よりお礼を申し上げます。

本会におきましては、今後とも、早稲田魂のもと、会員相互の親睦はもとより、教育情報や実践を交流しながら教育に携わる者として一層切磋琢磨できる組織にしたいと考えていますので、変わらぬご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。